

第3次千葉県青少年総合プラン 令和4年度事業評価シート

事業NO	1
------	---

事業名	ちばっ子「学力向上」総合プラン		
担当課・室・班名	教)学習指導課	問合せ先(電話番号)	4061

1 事業の概要

柱	I	基本目標	1	基本方策	①社会を生き抜く力の育成					
事業内容	「自ら課題を持ち 多様な人々と協働し 粘り強くやりぬく子」「子供と社会の変化を捉え 自律的に学ぶ姿勢を持ち 授業を工夫する教員」を目指す姿とし、子供たちの学ぶ意欲の向上と教員の授業改善の2つのアクションを推進していくことで、児童生徒の学力向上を図る。									
当初予算額(千円)	H30年度	175,916	R元年度	177,093	R2年度	178,090	R3年度	164,741	R4年度	320,052
決算額(千円)		112,507		129,645		510,516		109,794		227,292
財源内訳	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源
		国庫		国庫		国庫		国庫		国庫

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果(4年度)

- ・子供たちの主体的な学び促進事業では、「ちばっ子チャレンジ100」(小学生向け)や令和2年度までに改訂した「ちばのやる気学習ガイド」(中学生向け)についての活用の周知を図った。
- ・千葉県学習サポーター派遣事業では、学習サポーターを小・中学校188校に192名派遣した。
- ・ちばっ子の学び変革推進事業として、「学力・学習状況」検証校を15校指定し、授業公開や学力向上交流会を通して授業改善の成果等を発表、取組の理解、周知を図った。
- ・「ちばっ子学びの未来デザインシート」を504校、約15万人の児童生徒を対象に実施した。調査実施校による教師アンケートでは、昨年度同様約8割の学校から、「目的に沿った内容であった」との回答を得られた。

(2)事業の成果(4年度)

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止による休校があった令和2年度に比べると、子供たちの主体的な学び促進事業(「ちばっ子チャレンジ100」「ちばのやる気学習ガイド」「家庭学習のすすめ」サイト)の活用の割合は減少しているものの、児童生徒の主体的・自主的な取組のようすが確認できた。
- ・学力に課題のある小・中学校に対し、学習サポーターを派遣したことで、授業におけるきめ細かな学習支援や放課後等を活用した補充学習へ対応することができ、学力向上の一助となった。
- ・学力向上交流会を、オンラインやオンデマンド方式で開催し、授業動画の配信や実践事例の配付、検証校の授業をモデルにした協議などを実施し、充実させることができた。
- ・「授業づくりコーディネーター」活用事業により、コーディネーターを様々な場面(授業公開、指導・支援、講演・発表会等)で活用し、多くの学校が授業改善に取り組むことができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等(4年度)

- ・令和2年度に「ちばっ子『学力向上』総合プラン(学びの未来づくり ダブル・アクション+ONE)」(現行)を作成し、県HPの掲載や学校訪問、研修等を通じて、プランの周知及び理解の促進を図ってきたが、理解度に学校間による差が生じている状況が見られる。学力向上推進に向けた事業内容の一層の理解を図り、各学校においてプランに基づいた取組の推進が求められる。
- ・各事業の成果と課題について適切な評価を判定し、各事業の更なる充実を図る。

4 関連指標

関連指標	[主体的な学びの推進] ※【別紙】参照 授業で、話し合い活動がしっかりとできていると考えている児童生徒の割合 <全国学力・学習状況調査>					目標	増加を目指します
	基準年(H29)	H30	R1	R2	R3	R4	
	小学校6年生 77.0% 中学校3年生 72.0%	小学校6年生 76.6% 中学校3年生 73.8%	小学校6年生 72.7% 中学校3年生 69.9%	— 令和2年度は中止	小学校6年生 76.9% 中学校3年生 76.0%	小学校6年生 79.3% 中学校3年生 77.5%	

5 委員意見

--

第3次千葉県青少年総合プラン 令和4年度事業評価シート

事業NO 6

事業名	消費者教育啓発事業		
担当課・室・班名	くらし安全推進課	問合せ先(電話番号)	2292

1 事業の概要

柱	I	基本目標	1	基本方策	①社会を生き抜く力の育成					
事業内容	消費者の自立を支援し、消費者トラブルを未然に防ぐため、各種講座等を実施する。また、消費者被害防止に向け、消費者情報の提供や広報啓発を行う。									
当初予算額(千円)	H30年度	7,575	R元年度	7,187	R2年度	7,760	R3年度	8,257	R4年度	9,742
決算額(千円)		5,628		7,640		5,119		5,480		6,087
財源内訳	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源
		一部国庫		一部国庫		一部国庫		一部国庫		一部国庫

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果(4年度)

○自立支援講座の実施 38回2,626人参加(内若者対象 17回 2,072人参加)
 ○消費生活サポーター養成講座の開催(オンライン配信) 1回 77人参加
 ○高校生等若者向け消費者教育教材「オトナ社会へのパスポート」作成
 県内高等学校及び特別支援学校へテキスト72,000部 指導者向け手引書2,300部
 ○若者向け消費者啓発用冊子「知っているだけでちがう! 5つのStoryから考えよう!!」作成
 県内高等学校及び特別支援学校へ53,000部配布
 ○教員向け研修会(オンライン配信・集合対面形式) 105人参加
 ○消費者フォーラムの開催(金融経済講演会との合同開催) 1回165人参加

(2)事業の成果(4年度)

自立支援講座等の開催により、高校生等の若者をはじめ様々な世代に対し、消費者教育を提供することが出来た。また、教育機関と連携し、消費者教育教材の作成配布等を行い、学校における消費者教育を促進した。
 令和4年4月1日の民法改正による成年年齢が引下げに伴い、消費者フォーラムのテーマを「成年年齢引き下げに伴う若者の消費者被害防止」として開催した。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等(4年度)

・成年年齢の引下げを踏まえ、消費者被害防止のみならず自立した消費者を育成していくためには、ライフステージに応じた消費者教育を実施していくことが非常に重要である。
 ・そのため、学校において、実践的な消費者教育を行えるよう、引き続き「教員向け研修会」の開催や、高校生等若者向け啓発資材(冊子)の配布を行う必要がある。オンラインでの配信も検討していく。
 ・さらに、消費者問題に関する講座については、様々な主体に対し、積極的に周知を図っていく必要がある。

4 関連指標

関連指標						目標	
	基準年	H30	R1	R2	R3	R4	

5 委員意見

--

第3次千葉県青少年総合プラン 令和4年度事業評価シート

		事業NO	10
事業名	道徳教育推進プロジェクト事業		
担当課・室・班名	教)学習指導課	問合せ先(電話番号)	4060

1 事業の概要

柱	I	基本目標	1	基本方策	①社会を生き抜く力の育成					
事業内容	『『いのち』のつながりと輝き』をテーマに、小・中・高等学校の各学校段階に応じた体系的・系統的な道徳教育を推進することにより、児童生徒の道徳性を高める。									
当初予算額(千円)	H30年度	29,502	R元年度	30,000	R2年度	5,909	R3年度	17,621	R4年度	3,967
決算額(千円)		25,294		27,181		518		14,711		2,636
財源内訳	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源
		全額国費		全額国費		全額国費		全額国費		全額国庫

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果(4年度)

- ・年間1回の道徳教育懇談会を実施した。
- ・令和4年度は、幼稚園1園、小学校5校、中学校5校、高等学校5校、特別支援学校1校を「特色ある道徳教育推進校」に指定し、実践研究を実施した。
- ・道徳教育実践事例集DVD「心豊かに」を作成し、県内の公立学校に配付した。
- ・中学校、高等学校等の道徳教育推進教師研修会を実施した。
- ・高等学校読み物教材集「明日への扉Ⅳ」を作成し、県内の県立高等学校に配付した。

(2)事業の成果(4年度)

- ・道徳教育懇談会において、発達の段階に応じた本県の道徳教育の在り方等について協議し、千葉県の道徳教材や研修資料の活用における道徳教育の充実に資する意見を聴取した。
- ・「特色ある道徳教育推進校」における実践研究では、「考え、議論する道徳」への転換を目指した授業改善に取り組んだ。また、指定2年度の研究成果を道徳教育実践事例集DVD「心豊かに」に収録し、好事例を県内の公立学校に周知した。
- ・中学校、高等学校等の道徳教育推進教師研修会はオンラインでの資料配付形式で実施し、道徳の教科化に関わる国や県の動向を説明したり、県で作成した映像教材等の活用を促した。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等(4年度)

- ・令和5年度は新たな道徳教育推進校により研究の活動が始まる。道徳教育の研究を推進し、好事例を県内に広めていく。
- ・道徳教育実施状況調査を行い、県作成の映像教材や読み物教材の活用状況を把握し、活用を促していく。
- ・道徳授業の一層の充実、また、中学校における道徳科評価の改善のために、道徳教育推進教師を対象にした研修会を開催する。

4 関連指標

関連指標	[主体的な学びの推進] 道徳の授業で学んだことは、必要のあることだと思う割合					目標	85%以上をめ ざす。
	基準年	H30	R1	R2	R3	R4	
				小学校 95% 中学校 90%	小学校 95% 中学校 93%	小学校 94% 中学校 90%	

5 委員意見

--